



1/外国人のヴァン役を熱演した前川さん(中央) 2/アイドルとして世界に羽ばたく夢を山形町で叶えようとする、川上満役を演じた西川柚希子さん(左) 3/若手からベテランまで、表情豊かな演技で劇を盛り上げます 4/終演後には、出演者に来場者から暖かい声が贈られました 5/劇を作り上げたみんなで記念撮影。背景の絵は元地域づくり協力隊の山下竜司さんが担当

## 市民が作る

## 圧巻のステージ

**市**民が自分たちで作り上げる、おらほーる劇場第17回公演「こんにちはヴァン」が11月22日と23日、おらほーるで上演され、2日間で約260人が来場しました。

今回の劇は、ある山間のまち山形町を舞台に、夢を叶えようとする外国人の青年ヴァンと地域を盛り上げようとする人々を描いた物語です。小学生から70代まで約20人が8月から準備を始め、劇を上げました。体調不良による出演者変更を乗り越え、本番は表現豊かに好演。幕が下りると、会場から割れんばかりの拍手が送られました。初参加の前川星也さんは「せりふを覚えることや自分の見せ方に苦労しましたが、最終日を迎えられるのは助けてくれた皆さんのおかげです」と感謝。夏井中学校1年生の西川柚希さんは「せりふの間違いや動揺してしまったことが悔しいですが、昨年より声の大きさや声色の使い分けなどがうまくできました」と成長を実感していました。

## 市民みんなで作る久慈市総合計画

市では11月19日から12月24日にかけて、第3次久慈市総合計画の策定に向けた久慈市の未来を思い描くワークショップを、市内の事業所や中学校など14カ所と各地区の市政懇談会の中で開催しました。16日は三崎中学校で開催し、全校生徒30人が参加。2050年の久慈市をテーマに、未来に残したいものやほしいものなど理想の久慈市をグループで議論し、紙にまとめて発表してもらいました。3年生の櫻庭晴人さんは「久慈市にある文化や自然が残っていてほしいです。他の人によさを伝えていくことが大切だと思います」と将来を見据えました。ワークショップで出された意見を参考に、総合計画を策定していきます。



それぞれの理想をまとめる生徒



理想の久慈市について発表する生徒



12月の間アンバーホールに飾られたこけし灯籠

## のんさんのこけし灯籠を展示

俳優・アーティストとして活躍するのんさんがデザイン画を手掛けたこけし灯籠を展示します。灯籠は大阪関西国際芸術祭に展示されたもので、ゆかりのある久慈市での展示が実現。夕暮れに灯る灯籠の明かりが幻想的です。ぜひご覧ください。

▶展示期間…1月9日(金)～3月29日(日)  
▶会場…よむのす、やませ土風館など

